

団長の独り言

10月17日(土)とにかく笑顔で!

また雨・・・野外で稽古しているわけじゃないので、雨でも稽古には支障をきたさないけれど、雨が降っていると、なんとなく憂鬱になってしまふ。

雨は生命にとって大事なのも分かっているけれど、雨って苦手だなあ・・・でもそんな憂鬱な気持ちも、平野カーが稽古場に到着し、続々とメンバー達がやってきて、笑顔で荷物の搬入作業を行う姿に接すると、「よっしゃー」って気持ちになる。

どんな時でも「笑顔」ってのは、やっぱり大事だね。

そうそう、そういえば、今、我々が稽古を行っている施設では、区の吹奏楽団も練習に使っていて、我々の稽古とちよーど入れ違いなのかどうなのか?そちらは2トン車を横付けして、大中小の太鼓とか、テッキン?モッキン?等の大物楽器の搬出作業を行っていて、何気に我々の搬入作業とかぶるのだ。

その吹奏楽団は、そーだなあー高校か大学の吹奏楽サークルのような雰囲気

気の若者達で、数十人はいるかな?

ただその数十人の若者達は、団が結成されて間もないのかどうなのか、観察していると、それほど「親しい」って感じではなく、どこことなくお互いに遠慮しつつの搬入作業をしている。

で、この日もいつものように、私は平野カーの後部ハッチを開け、小道具類を車外へと降ろし、メンバーが来るのを待ちながら、フツと搬入口に目をやると!?

劇団メンバーを呼びに行ったはずの次女で出演者の平野美和が、何故か吹奏楽団の若者の青年と一緒に太鼓の搬入を手伝っている。

「あれ?なんで美和が手伝っているんだ?知り合いかな?」と一瞬思ったが、それにしても美和の態度はよそよそしく、運んでいた太鼓をトラックの荷台付近に置くと、青年と会話するわけでもなく、そそくさと建物の中に入っていく、暫くして劇団メンバーを呼んできた美和がやってきたので、

「なんで荷物を運ぶの手伝ってたん?知り合いか?」と聞けば、

「知らない人!でも、いきなり『そっち持ってもらえる?』って言われたからティンパ(ティンパニ)を運んだ」との事。

「しかも!手伝ってあげたのに、他に大勢いる子たちも、『手伝っていただけありがたいございます』とかもなかった!」と、やや憤慨していた。

恐らく「そっち持ってもらえる?」と言った青年は、美和を仲間だと勘違いしたのだろう。

逆に「なんだよ!この子、すぐそばにいるのに、なんでティンパを持ってくれないんだよ!気が利かねーな」くらい思っていたかもしれない。

美和は、中学高校と吹奏楽部において、現在、大学ではジャズ研究会でサックスを吹いているから、オーラ?というか雰囲気は、吹奏楽団の若者と同じ感じがする。

ましてや今回の劇団ふぁんハウスの出演メンバーの平均年齢は、50歳は超えているだろうし、どう見ても美和がこっちチームとはそりゃー思わないわなあ。

それにしても、美和も「私、違います」

と言えはいいのに、素直に手伝うところが笑える。稽古場のみんなも大笑い。

そんな笑顔のメンバーも、この日の稽古からフェイスシールドにマスク。やはりね、今は気をぬいちゃいけないわけだし、慎重を期すためにも、稽古中は全員フェイスシールドにマスク着用を義務付ける事にした。

最初はシールドが曇るし、なんだか煩わしい感じだったけれど、慣れというのはすごいもので、1時間もやっていると「この姿」が当たり前となり、なんの違和感もなくなる。

ただこの姿、客観的に見ると、やはり異様な光景だよな・・・。こんなものを顔の前に付けて、芝居の稽古をしなきゃいけないなんて・・・。まるでSF作品の稽古でもしているかのようだが・・・まあある意味SFか。

そういえば皆さんのお顔も、ちゃんと観られていないよなあ。

いつもマスクしているし・・・

みんなどんな顔していたっけ?って思いながらも、笑顔で稽古に励む日々でありました。